

4 学年 算数科学習指導案

日 時	平成 16 年 9 月 29 日 (水)	6 校時
児童数	第 4 学年 男 23 名 女 17 名	計 40 名
指導者	わくわくコース	門屋まゆみ
	どきどきコース	佐藤 拓巳
場 所	わくわくコース	4 年 2 組
	どきどきコース	4 年 1 組

1 単元名 「わり算の筆算を考えよう」

2 単元について

(1) 教材について

本単元のねらいは、「筆算形式による 2, 3 位数を 2 位数でわる除法計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。」ことである。

除法については、第 3 学年で、わり算の意味とかけ算九九を一回適用してできる除法計算の意味と計算方法について、そして、第 4 学年第 3 単元で、除数が 1 位数の場合についての整数の除法の計算(筆算)について学習してきた。

本単元では除数が 2 位数で、被除数が 2, 3 位数の計算方法を学習する。2 位数でわる計算は、除数の桁数が増えても計算を進めるときの考え方や手順は同じである。つまり、商を求めるときには、たてる かける ひく おろす の 4 操作を繰り返して計算を進めていくのは同じである。しかし、除数が 2 位数になると、商を たてる 段階が複雑になり、児童にとって計算方法の理解と習熟が困難になってくる。それは、仮商をたて、それを修正して真商を求める必要があり、商の求め方が試行錯誤的になるからである。できるだけ真商に近い仮商のたて方と確実なその修正のしかたの指導が、本単元の重要なポイントである。

第 1 小単元では、わる数が 2 位数のわり算の前段階として、仮商を求めるときに必要な何十÷何十、何百÷何十などの計算のしかたを学習する。つまり、10 をもとにして考え、既習の 1 位数÷1 位数、2 位数÷1 位数の計算に帰着させることによって商を求めることを理解させる。なお、このとき、除数、被除数を 10 で割っても商はかわらないというわり算の性質について具体例を通して理解させる。また、「商」「積」という用語を知らせ、その使い方にも慣れさせる。

第 2 小単元では、2 位数でわると商が 1 位数になるわり算の筆算について、仮商のたて方と修正のしかたを学習する。仮商の修正のない場合、過大商の場合、過小商の場合と順に取り上げ学習し、その場にふさわしい方法で商を修正し、真商を見つけられるように習熟させていきたい。

第 3 小単元では、わる数が 2 位数で、商が 2 位数になるわり算の筆算の方法を学習する。ここでは最初の商のたつ位の理解が特に重要である。初めから形式的に指導するのではなく、具体的な場面や数感覚をもとにして、最初の商のたつ位が判断できるようにすることが大切である。そして、筆算の形式的処理のよさを理解させたい。

第 4 小単元では、わり算の性質を具体的な数値を通して理解させる。それとと

もに、末尾に0のある除法の簡便な方法を理解させる。については、「わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、また、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない」ということを理解させる。また、については、末尾の0を処理して（つまり、わられる数、わる数を10、100などでわっても）計算しても商は変わらないという除法の性質を用いた簡便な計算のしかたを理解させる。単に、わられる数、わる数の0を消すという形式だけでなく、既習のわり算の性質との関連づけを重視し学習させたい。

(2) 児童について

児童は、習熟度別指導に対して2学年から行っており、抵抗なく意欲的に取り組む様子が見られる。アンケート結果から、習熟度別指導でのよさについて、「自分にあったペースで学習できる」「楽しい」「丁寧に教えてもらえる」「わかりやすい」等をあげている。ただし、コース選択の際、自分の力を客観的にとらえられず、自分の力にあったコースを選択できていない児童もみられる。かしの木テスト（事前テスト）の結果等を生かし、担任と話し合いながらコース選択させたい。

かしの木テスト（事前）の結果から、既習の除数が1位数の場合のわり算は、ほぼ全員しっかりと定着している。しかし、暗算や除法計算の速さ等、計算能力には差がみられる。未習の除数が2位数の場合のわり算については、40名中7名が答えを求めることができたが、仮商をたてて考えるという問題は全員できなかった。

以上の結果をもとにして、本単元では、習熟度別学習の形態を用いて、理解を深めさせていきたい。

(3) 指導にあたって

コースの分け方について

本単元では、単元前半（第2小単元まで）を3コース、単元後半（第3小単元から）を2コースの習熟度別コースで学習を進めていく。

単元前半を「にこにこコース：10名程度。半具体物等を操作し確かめながら、基礎基本を確実に定着させていくコース」「わくわくコース：15名程度。個々の考えを生かしながら、基礎基本を確実に定着させていくコース」「どきどきコース：15名程度。課題に対して、自分で工夫して考え、お互いにわかりやすく説明し合って進めるコース。発展的問題等も取り入れる。」の3コースに分けて習熟度別学習を行う。できるだけ少人数とし、個に応じたきめ細かな指導を心がけ、基礎的な内容を一人一人にしっかりと定着させていくようにしたい。

第2小単元までを学習し終わった後にかしの木テストをもう一度行い、習熟度別コースの再編成を行う。そして、単元後半を「わくわくコース」と「どきどきコース」の2コースに分けて習熟度別学習を行う。ここでは、コースの人数を若干増やすことで、練り合いの活動を意図的に増やし充実させたい。様々な考えを交流し合い、練り合うことで児童の除法に対する理解をより深めさせていきたい。

指導観

本単元では、仮商を求めるときに必要な何十÷何十、何百÷何十などの計算のしかたから学習する。ここでは、10をもとにして考えると既習の1位数÷1位数や2位数÷1位数の計算を使うことができることに気づかせていく。このとき、除数、被除数を10でわっても商は変わらないことを具体例を通してしっかりと理解させたい。

その後、除数が2位数で商が1位数、そして、商が2位数の場合と授業を進めていく。その際、今まで習ってきた問題とどこが違うのか、そして、どこが同じなのかを

はっきりとさせ、この問題を解決するために使えるような既習の考え方や方法はないかなど、前に学習したことを生かそうとする態度を大切に、既習との関連付けを重視した指導をしていきたい。

わくわくコースでは、理解するまでに時間を要する子どもが多いので、数多くの練習問題に取り組むことで、筆算の手順の理解を図る。また、既習のわり算のきまりを確認しながら誤答を検討することで、筆算の手順の理解をいっそう深めさせたい。

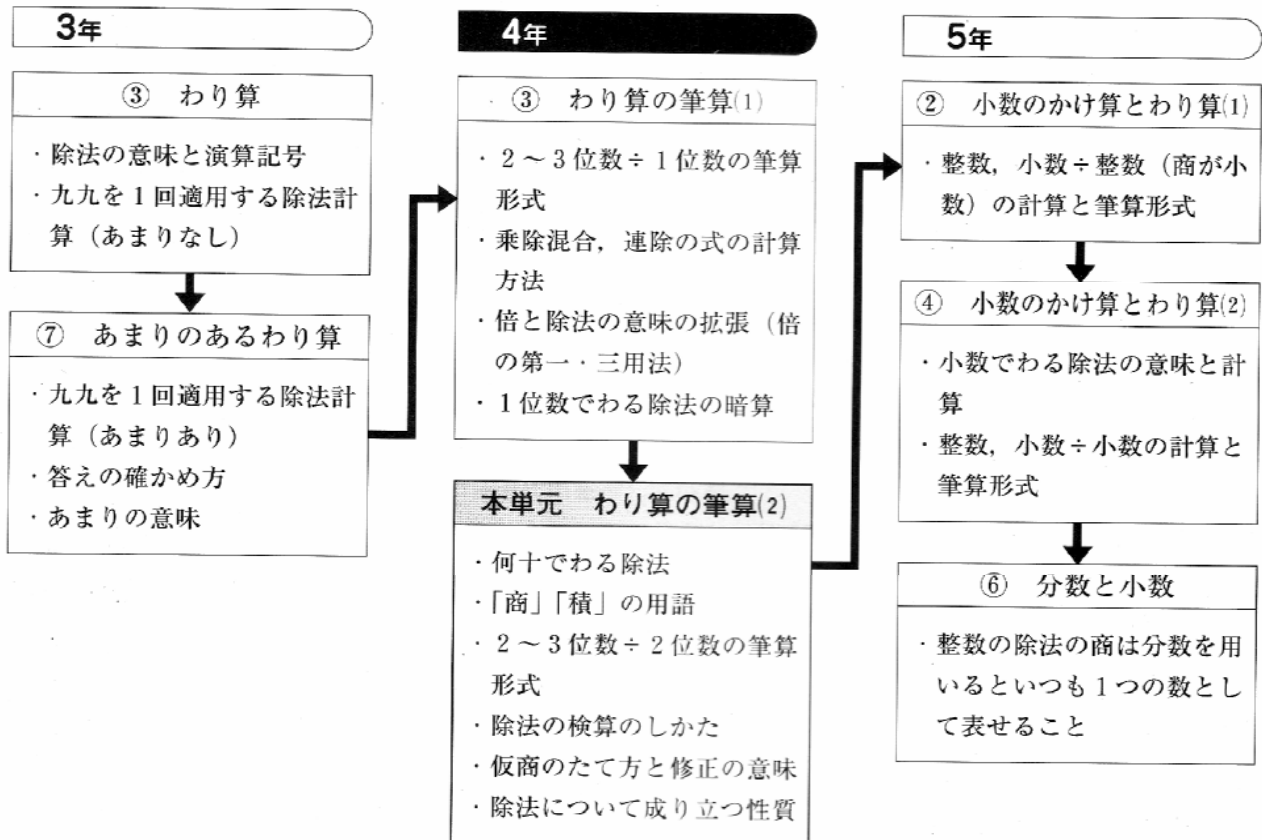
どきどきコースでは、発展的な学習内容である4位数÷2位数を取り上げる。この学習を通して、被除数の桁数がどんなに増えても、各位の数を単位として考えたと既習の形式的な手順（たてる・かける・ひく・おろす）で計算することができるということに気づかせ、筆算のしくみのよさとその理解をより深め、広げさせていきたい。

3 単元の目標

筆算形式による2～3位数を2位数でわる除法計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。

- 【関心・意欲・態度】
 - ・除数が2位数の除法計算のしかたを、既習の除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。
- 【数学的な考え方】
 - ・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考える。
- 【表現・処理】
 - ・除法が2位数の除法計算を筆算で正確にできる。
- 【知識・理解】
 - ・除数が何十の除法計算のしかたを理解する。
 - ・除数が2位数の除法の筆算のしかたを理解する。

4 教材の関連と発展



(2) 本時の展開(どきどきコース)

前時の学習について

本時は2時間扱いの2時間目である。前時では、 $345 \div 21$ の筆算は既習のわり算の筆算のしかたと同じ手順でできることに気づかせ、筆算のしかたをまとめるところまで学習しており、本時はその続きである。

学びの広がりの場とその支援について

本時では、発展的な学習内容である4位数 \div 2位数を取り上げる。被除数の桁数がいくら増えても既習のわり算のしかたを用いて計算することができることに気づかせ、わり算の筆算のしくみのよさとその理解をより広げ、深めさせることをねらいとする。

網掛け・・・「学びの広がり」に関わって

・・・・個に応じた支援

段階	学 習 活 動	支 援 と 評 価																																																																																										
つかむ 10分	<p>1 問題を把握する。 前時の学習の$345 \div 21$の筆算のしかたを振り返る。 発展的な問題、$3456 \div 21$を把握する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; margin: 5px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>6</td></tr> <tr><td>2</td><td>1</td><td>√</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9</td></tr> </table> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; margin: 5px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>1</td><td>√</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>3</td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>6</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9</td><td></td></tr> </table> </div> </div> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>わられる数が3けたより大きいときの筆算のしかたを考えよう。</p> </div>				1	6	2	1	√	3	4	5				2	1					1	3	5				1	2	6						9				1	6		2	1	√	3	4	5	6				2	1						1	3	5					1	2	6							9		<p>前時の学習$345 \div 21$の筆算のしかたとその意味についての掲示をし、想起しやすいようにする。</p> <p>発展的な問題であるが、既習の計算の被除数に6をつけ足す形で提示することにより、抵抗感を和らげるとともに、意欲を持たせるようにする。</p>														
			1	6																																																																																								
2	1	√	3	4	5																																																																																							
			2	1																																																																																								
			1	3	5																																																																																							
			1	2	6																																																																																							
					9																																																																																							
			1	6																																																																																								
2	1	√	3	4	5	6																																																																																						
			2	1																																																																																								
			1	3	5																																																																																							
			1	2	6																																																																																							
					9																																																																																							
見通す 2分	<p>3 課題解決の方法を考える。 $3456 \div 21$の筆算のしかたを見通す。 既習の筆算のしかたを使えば、計算できそうなことに気づく。 T: どうすれば商を求めることができそうですか。 C: 6をおろして計算を続けられそうです。</p>	<p>一の位の6をおろして、既習の筆算のしかたを続けられれば商を求めることができそうなことに気づくようにする。</p>																																																																																										
調べ 8分	<p>4 課題を解決する。 筆算で計算する。 T: 各自で計算をしますが、答えを求めるだけでなく計算のしかたの説明もいえるようにノートに書きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; margin: 5px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>6</td></tr> <tr><td>2</td><td>1</td><td>√</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9</td></tr> </table> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; margin: 5px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>6</td><td>4</td></tr> <tr><td>2</td><td>1</td><td>√</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>3</td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>6</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>8</td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> </table> </div> </div>				1	6	2	1	√	3	4	5				2	1					1	3	5				1	2	6						9				1	6	4	2	1	√	3	4	5	6				2	1						1	3	5					1	2	6							9	6						8	4						1	2	<p>単に計算をして答えを求めるのではなく、筆算の計算のしかたの説明も考えるよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つまづいている子へは、計算のしかたの説明等を記入できる補助プリントを準備し、考えさせる。
			1	6																																																																																								
2	1	√	3	4	5																																																																																							
			2	1																																																																																								
			1	3	5																																																																																							
			1	2	6																																																																																							
					9																																																																																							
			1	6	4																																																																																							
2	1	√	3	4	5	6																																																																																						
			2	1																																																																																								
			1	3	5																																																																																							
			1	2	6																																																																																							
					9	6																																																																																						
					8	4																																																																																						
					1	2																																																																																						

<p>確かめる 10分</p>	<p>5 課題の検討をする。 考えを発表する。 商とあまりが正しいか、けん算をして確かめる。 $21 \times 164 + 12 = 3456$</p> <p>筆算のしかたの説明を発表する。 千の位の計算 $3 \div 21$ だから商は立たない。 百の位の計算 $34 \div 21 = 1$ あまり13 十の位の計算 5をおろす。 $135 \div 21 = 6$ あまり9 一の位の計算 6をおろす。 $96 \div 21 = 4$ あまり12</p>	<p>前時の筆算と対比させながら考えさせることにより、被除数の上の位から順に、それぞれの位の数を単位にして考えていくと、既習のわり算の筆算のしかたと同じ手順で計算できることに気づくようにする。そうすることにより、わり算の筆算の理解を深めるようにする。 【知識・理解】3(4)位数÷2位数の筆算のしかたを理解している。</p>
<p>まとめる 15分</p>	<p>6 課題をまとめる。 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わられる数が3けたより大きくなって、今までのわり算の筆算のしかたで計算することができる。</p> </div> <p>7 練習問題を解く。 ・ 商の立つ位置を考える問題 ・ P22 を解く。 ・ チャレンジ問題「4位数÷2位数」に挑戦する。 $4294 \div 18$ $1336 \div 36$</p> <p>8 本時を振り返る。 自己評価する。 感想や分かったことを書く。</p>	<p>商の立つ位置を考える問題の答えを全員で確認し、その後各自で取り組むようにする。が終わった後に自己採点をさせ、その後チャレンジ問題に挑戦させるようにする。</p> <p>・ つまずきの見られる子どもにはヒントカードを準備する。 【表現・処理】3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。</p>

(3) 板書計画

<p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>わられる数が3けたより大きいときの筆算のしかたを考えよう。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center; margin-right: 10px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>6</td><td>4</td></tr> <tr><td>2</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>9</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>8</td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>$3456 \div 21$ の筆算のしかた</p> <p>千の位 $3 \div 21 \times$</p> <p>百の位 $34 \div 21 = 1$ あまり13</p> <p>十の位 $135 \div 21 = 6$ あまり9</p> <p>一の位 $96 \div 21 = 4$ あまり12</p> </div> </div>				1	6	4	2	1	3	4	5	6				2	1					1	3	5				1	2	6					9	6					8	4					1	2	<p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>わられる数が3けたより大きくなって、今までのわり算の筆算のしかたで計算することができる。</p> </div> <p>練習問題</p> <p>商は何の位から立ちますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> </div>
			1	6	4																																												
2	1	3	4	5	6																																												
			2	1																																													
			1	3	5																																												
			1	2	6																																												
				9	6																																												
				8	4																																												
				1	2																																												

(4) 本時の評価

- 〔表現・処理〕 3位数÷2位数=2位数の筆算ができたか。
- 〔知識・理解〕 3位数÷2位数=2位数の筆算のしかたを理解しているか。

5 単元の指導計画及び評価規準 (全 15 時間)

時	学習活動	観点	評価規準			評価の方法
			A	B	指導の手だて	
何十でわる計算	1	・ $60 \div 20$ の計算のしかたを考える。	関・意・態 10 を単位として何十でわる計算(あまりなし)のしかたを進んで考えようとしている。	10 を単位として何十でわる計算(あまりなし)のしかたを考えようとしている。	具体物を使って, 10 のまとまりに着目するようにしてから考えるようにする。	観察 発言 ノート プリント
		・ 計算練習をする。	表・処 何十でわる計算(あまりなし)が暗算で正確にできる。	何十でわる計算(あまりなし)ができる。	具体物を操作したり, 図にかいたりしながら計算する。	
	2	・ $90 \div 20$ の計算のしかたを考える。	知・理 何十でわる計算(あまりあり)のしかたを理解し, 説明できる。	何十でわる計算(あまりあり)のしかたを理解している。	10 を単位として考えるようにする。「あまり」は, 10 のまとまりが 1 つあまっていることを具体物を操作して確認する。	
		・ 計算練習をする。	表・処 何十でわる計算(あまりあり)が暗算で正確にできる。	何十でわる計算(あまりあり)ができる。	具体物を操作したり, 図にかいたりしながら計算する。	
2けたの数でわる筆算	1 ・ 2	・ $87 \div 21$ の筆算のしかたを考える。	関・意・態 2 位数 \div 2 位数の計算のしかたを進んで考えようとしている。	2 位数 \div 2 位数の計算のしかたを考えようとしている。	具体物を操作したり, 図にかいたりしながら, 考えるようにする。	観察 発言 ノート プリント
		・ $87 \div 21$ の計算の検算をする。	知・理 わり算のしかたやその検算のしかたを理解し, 説明できる。	わり算のしかたやその検算のしかたを理解している。	商の見当をつけてから考えるようにする。具体的な場面を通して検算のしかたを確かめる。	
		・ 計算練習をする。	表・処 2 位数 \div 2 位数(仮商修正なし)の筆算が正確にできる。	2 位数 \div 2 位数(仮商修正なし)の筆算ができる。	わる数を何十とみるようにしてから商の見当をつけるようにする。筆算のしかたのまとめを見ながら, 「たてる・かける・ひく」に気をつけて計算する。	
	3	・ $86 \div 23 \cdot 81 \div 12$ の筆算のしかたを考える。	考え方 仮商のたて方, 修正のしかたを商の見通しをもちながら筋道立てて説明できる。	仮商のたて方, 修正のしかたを筋道立てて説明できる。	わる数を何十とみてから, 商の見当をつけるようにする。かけた数やひいた数とわる数を確かめるようにする。	観察 発言 ノート プリント
		・ 仮商修正 1 回の場合と 2 回の場合の計算のしかたを理解し, この型の計算練習をする。	表・処 商の見通しをもちながら仮商修正を行い, 正確に筆算ができる。	過大商をたてたときの仮商修正の筆算ができる。	仮商修正のしかたをふり返りながら, 修正したことが分かるように軌跡を残して, 確かめながら筆算をする。	

2けたの数でわる筆算	4	<ul style="list-style-type: none"> 79 ÷ 19 の筆算のしかたを考える。 過小商の場合の仮商修正のしかたを理解し、この方法の計算練習をする。 	<p>考え方</p> <p>仮商のたて方、修正のしかたを商の見通しをもちながら筋道立てて説明できる。</p>	<p>仮商のたて方、修正のしかたを筋道立てて説明できる。</p>	<p>わる数を何十とみてから商の見当をつけるようにする。ひいた数とわる数の大小を確かめるようにする。</p>	観察 発言 ノート プリント	
		表・処	過小商をたてたときの仮商修正の筆算が商の見通しをもちながら正確にできる。	過小商をたてたときの仮商修正の筆算ができる。	仮商をたてるとき、わる数を何十とみると計算しやすいか考えながら計算する。		
	5	<ul style="list-style-type: none"> 87 ÷ 25 の筆算のしかたを考える。 除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)場合の筆算のしかたを比べる。 	<p>関・意・態</p> <p>仮商をたてやすい除数の処理を進んで考えようとしている。</p>	<p>仮商をたてやすい除数の処理を考えようとしている。</p>	<p>わる数を何十とみれば商の見当がつくか考えるようにする。</p>	観察 発言 ノート プリント	
		考え方	過大商と過小商のそれぞれの仮商修正のしかたをやりやすさを考えながら比べることができる。	過大商と過小商のそれぞれの仮商修正のしかたを比べることができる。	見当をつけた商が大きすぎたときは、商を1小さくすること、商が小さすぎたときは、商を1大きくすることを確認する。		
	6	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習をする。 	表・処	3位数 ÷ 2位数 = 1位数の筆算が正確にできる。	3位数 ÷ 2位数 = 1位数の筆算ができる。	わる数を何十とみれば商の見当がつくか考えてから、除法のアルゴリズムにあわせて計算をする。	観察 ノート プリント
	7	<ul style="list-style-type: none"> 「練習」をする。 	表・処	2～3位数 ÷ 2位数 = 1位数の筆算が正確にできる。	2～3位数 ÷ 2位数 = 1位数の筆算ができる。	わる数を何十とみれば商の見当がつくか考えてから、アルゴリズムにあわせて、繰り返し筆算をする。	観察 ノート プリント
2けたの数でわる筆算(2)	1	<ul style="list-style-type: none"> 345 ÷ 21 の筆算のしかたを考える。 	考え方	既習の計算のしかたをもとに商をたてる位置の見通しをもちながら筆算のしかたを考えることができる。	既習の計算のしかたをもとに筆算のしかたを考えることができる。	具体物を操作しながら、わられる数を10を単位としてとらえるようにする。そのことをもとに、十の位に商がたつことに気づくようにする。	観察 発言 ノート プリント
	2	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習する 	<p>知・理</p> <p>表・処</p>	<p>3(4)位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算のしかたを理解し説明できる。</p> <p>3位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算が正確にできる。</p>	<p>3(4)位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算のしかたを理解している。</p> <p>3位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算ができる。</p>	<p>「わり算の筆算のしかた」を見ながら、商をたてる位置と筆算の手順を確かめる。</p> <p>九九カードを活用したり、補助計算をしながら、除法のアルゴリズムにあわせて計算する。</p>	観察 発言 ノート プリント

2けたの数でわる筆算(2)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ $941 \div 23$ の筆算のしかたを考える。 ・ 計算練習をする。 	知・理	商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算のしかたを理解し説明できる。	商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算のしかたを理解している。	あまりがわる数より小さく、ひくことができないので、商を0にすることに気づくようにする。	観察 発言 ノート プリント
			表・処	3 位数 \div 2 位数 $=2$ 位数の筆算が正確にできる。	3 位数 \div 2 位数 $=2$ 位数の筆算ができる。	ひいた数(あまりの数)がわる数より小さいことを確認し、小さい場合は商に0をたてるようにする。	
わり算のきまり	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ $150 \div 50$ と $15 \div 5$ の答えが等しいわけを考える。 ・ 除法のきまりをまとめる。 	考え方	具体的な場面から、被除数、除数と商の関係を除法のきまりを用いて考えることができる。	具体的な場面から、被除数、除数と商の関係を考えることができる。	具体物を用意し、ばらのままで考えている場合と10のまとまりで考えている場合を比べるようにする。	観察 発言 ノート プリント
			知・理	除法の性質を理解し、説明できる。	除法の性質を理解している。	具体物を用意し、操作活動を通してまとめの言葉へつなげるようにする。	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習問題をあまりの大きさに注意して計算する。 	表・処	末尾に0のある数の除法の簡便な計算が除法の性質を用いて正確にできる。	末尾に0のある数の除法の簡便な計算ができる。	具体物を操作しながら筆算と比べ、あまりの大きさを確かめる。	観察 発言 ノート プリント
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ (チャレンジ) 世界の国々のわり算の筆算のしかたを比べる。 	関・意・態	外国のわり算の筆算とのちがいを進んで見つけようとしている。	外国のわり算の筆算とのちがいを見つけようとしている。	3~4カ国のわり算の筆算をし、日本の形式との違いを比べる。	観察 発言 ノート プリント

6 本時の指導 (1 1 / 1 5)

(1) 本時の目標

3 位数 ÷ 2 位数 = 2 位数の筆算のしかたを理解し,その計算ができる。

【表現・処理】 3 位数 ÷ 2 位数 = 2 位数の筆算ができる。

【知識・理解】 3 位数 ÷ 2 位数 = 2 位数の筆算のしかたを理解している。

(2) 本時の展開 (わくわくコース)

前時の学習について

2 時間扱いの 1 時間目の学習であった前時では, 題意をとらえた後, 具体物操作を行い商は十の位にたつことを理解させた。そして, 商の位置さえ決まれば, あとは既習の計算手順と同じであることに気づかせ, 345 ÷ 21 の筆算のしかたをまとめた。

学びの広がり場とその支援について

既習のわり算のきまりを確認しながら 875 ÷ 52 の誤答を検討することで, 筆算の手順の理解をより一層深めさせる。

発展問題の 4 位数 ÷ 2 位数の筆算を解くことで, 4 位数以上のわり算も同じ手順で解決できることに気づかせ, 学習への興味・関心・意欲を高めさせる。

網掛け...「学びの広がり」に関わって

- ・ ...個に応じた支援

段階	学 習 活 動	支 援 と 評 価
つかむ 5分	<p>1 問題を把握する。 前時の学習を振り返る。 T: 345 ÷ 21 の筆算のしかたを確認しましょう。 問題を提示する。 T: 875 ÷ 52 です。</p> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">875 ÷ 52 の筆算のしかたを考えよう。</div>	<p>前時の学習 345 ÷ 21 の筆算のしかたとその意味についての掲示をし, 想起しやすいようにする。</p> <p>前時の 345 ÷ 21 と同じところ (商の立つ位置), 違うところ (仮商修正が必要) をおさえる。</p>
見通す 2分	<p>3 課題解決の方法を考える。 875 ÷ 52 の筆算のしかたを見通す。 T: どうすれば商を求めることができそうですか。 C: わる数を 50 とみて, 商の見当をつけます。 C: 8 ÷ 52 はできないので, 百の位には商がたちません。だから, 100 の束を 10 の束にばらして考えます。 C: たてる・かける・ひく・おろすの手順で計算します。</p>	<p>商のたてかたと仮商修正のしかたをもう一度復習し, 課題解決の手だてとする。</p>

<p>調べる</p> <p>5分</p>	<p>4 課題を解決する。 筆算で計算する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・九九でつまづいている子どもには、九九カードを用意する。 ・繰り上がりや繰り下がりの計算が苦手な子どもには、補助計算を書くよう声がけをする。
<p>確かめる</p> <p>10分</p>	<p>5 課題の検討をする。 875 ÷ 52 の誤答を検討する。 予想される誤答</p>	<p>誤答を提示し、既習のわり算のきまりを確認しながら、検討し合うことで、筆算の手順の理解をより一層深める。</p> <p>位ごとに仮商を考えていることを強調すると同時に、商の立つ位置さえ決まれば、既習の1位数でわる筆算と同様に「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の手順が繰り返されていることをおさえる。</p> <p>【知識・理解】 3位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算の仕方を理解している。</p>
<p>まとめる</p>	<p>6 課題をまとめる。 875 ÷ 52 の筆算のしかたをまとめ、赤で囲む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><u>875 ÷ 52 の筆算のしかた</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わる数を50とみる。 [百の位の計算] ・商はたたない。 [十の位の計算] ・見当つけた商1をたてる。 ・52と1をかける。 ・87から52をひく。 [一の位の計算] ・5おろす。 ・見当つけた商7をたてる。 ・52と7をかける。 ・355から364はひけない。 ・商を1小さくする。 ・52と6をかける。 ・355から312をひく。 <p><u>875 ÷ 52 = 16 あまり 43</u></p> </div>	<p>875 ÷ 52 の筆算のしかたを教師と一緒に確認することで、3位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算のしかたについての理解を確実にする。</p>

<p>まとめ</p> <p>23分</p>	<p>7 練習問題を解く。 教科書 P22 の練習問題の残りを自力解決する。 (1) $684 \div 36$ (2) $883 \div 28$ (3) $603 \div 32$ (4) $630 \div 35$</p> <p>チャレンジ問題（4位数÷2位数）に挑戦する。 $3456 \div 21$</p> <p>8 本時の学習を振り返る。 自己評価をする。 感想や分かったことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 問目は教師が添削する。計算のしかたを理解している子どもは、それ以降の問題を採点コーナーで自己採点する。 ・ 九九が定着していない子どもには、自作の九九カードを持たせ、計算の助けとする。 ・ 繰り上がりや繰り下がりの計算が苦手な子どもには、補助計算を書くよう声かけをする。 <p>【知識・理解】 3位数÷2位数 = 2位数の筆算のしかたを理解している。</p> <p>【表現・処理】 3位数÷2位数 = 2位数の筆算ができる。</p> <p>発展問題の4位数÷2位数の筆算を解くことで、4位数以上のわり算も同じ手順で解決できることに気づくことで、学習への興味・関心・意欲を高めるようにする。</p>
-----------------------	--	--

(3) 板書計画

<p>課題 $875 \div 52$ の筆算のしかたを考えよう。</p>		
$\begin{array}{r} 16 \\ 52 \overline{) 875} \\ \underline{52} \\ 355 \\ \underline{312} \\ 43 \end{array}$	<p style="text-align: center;"><u>$875 \div 52$ の筆算のしかた</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わる数を50とみる。 <p>[百の位の計算]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商はたたない。 <p>[十の位の計算]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見当つけた商1をたてる。 ・ 52と1をかける。 ・ 87から52をひく。 <p>[一の位の計算]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5おろす。 ・ 見当つけた商7をたてる。 ・ 52と7をかける。 ・ 355から364はひけない。 ・ 商を1小さくする。 ・ 52と6をかける。 ・ 355から312をひく。 <p style="text-align: center;"><u>$875 \div 52 = 16$ あまり 43</u></p>	<p>誤答</p>